D 56　前田家御殿女中の化粧について

富山女子短大　陶智子

〔目的〕従来ふれられることのなかった、江戸時代における外様第一の大名前田家に仕えた御殿女中の化粧の特質を明らかにし、また御殿女中たちが化粧することの意義を明らかにする。

〔方法〕前田家の旧蔵書を調査し、前田家に仕えた御殿女中が使用していたと考えられる化粧書は三点あることが判明した。

具体的には、一点は加賀藩の旧蔵書であり、現在金沢市立図書館加越能文庫所蔵の『女礼集』である。残り二点は、富山藩最後の藩主前田利同が旧富山市立図書館に寄贈し、富山藩旧蔵書であったと考えられる『女礼』『女中化粧録』（現在は富山県立図書館所蔵）である。それらの内容を調査することによって、その特質を明らかにする。

また、庶民も読み、参考にしていたと考えられる、江戸時代の女性向刊行物の化粧関係の記事をとりあげ、それらと比較することによって「化粧」をするということの意義を明らかにする。

〔結果〕前田家に仕えた御殿女中の化粧は、江戸時代初期の礼法家、水島元成（卜也）の流であり、近世大名の御殿女中たちの間でひろく行われていた流をくむものであることがわかった。

また、化粧は御殿女中の礼法の中に位置付けられ、身分階級を示すものであるという、現在の「化粧」とは異なる側面をも含むということが明らかになった。